

夢咲かせよう 立志の丘で

平成26年9月10日
No.18

田沢湖一周ラリー 全生徒が完走

西仙北中学校開校以来はじまった「田沢湖一周ラリー」、今年は77名の3年生全員が、20.6kmの田沢湖一周を完走しました。

期日は9月1日。3年間とも曇りのち晴れの天気、9月の上旬は毎年快晴に恵まれることを実感いたしました。

学校を8時半に出発、2台のバスで9時半過ぎに、たつこ茶屋駐車場に到着しました。早速、出発式を行い、私(校長)のスタートピストルの合図でGO。77名が班ごとに歩き出しました。午前中は御座の石まで午後よりも2km弱多い道のりです。午前10時過ぎに出発し、御座の石に到着したがのが、12時20分頃でした。

様々に変化する青色の田沢湖を左に、上を見上げると空に木々の葉が描かれているのを見ながらの歩行でした。その葉は、重なりあったところが光の関係で鑑賞し続けたくなるほどの文様を表していました。その中を、生徒たちは、学校のこと、生活のこと、世の中の事柄を断片的に語りながら、またときには歌を歌ったり、歌に合わせて小走りしたりと、友達と歩くことを満喫していました。

御座の石では、昼食をとりました。全ての班が昼食をとり終えて少し休憩をとりました。休憩中に湖のほとりに行き、魚と戯れている間に、水中に入ってしまった男子生徒もいました。その顔は、幼児に返った水遊び、そのままでした。

休憩を終えて、午後1時20分頃に後半戦が始まりました。学年主任の今野先生に、道路の歩き方をもう一度指導され、グループで仲良く出発しました。途中で、他の先生方が待ち構えてくれ、補食(飴



やゼリー状のもの等)を渡してくれました。この瞬間が何よりも嬉しかったようです。

後半は、距離が短く感じられ、午後3時10分頃には、先頭集団がゴールしました。全部の班がゴールしたのは、午後3時40分頃で、最終班には、大きな拍手が送られました。

湖に飛び込んだ男子生徒のトレパン・トレシャツもすっかり乾き、湖をバックに集合写真を撮影しました。

その後、バスのピストン輸送で、宿泊場所「秋田県立田沢湖スポーツセンター」に向かいました。山は日が沈むのが早く、入所式よりも早速飯盒炊爨(はんごうすいさん)に取りかかった方がいい、という助言をセンター職員の方からいただき、先発隊が徒歩でキャンプ場炊事場に向かいました。先発隊は調理の係でした。後発隊が30分後に到着し、炊事場に向かいました。後発隊は、火起こし係です。各調理ができれば、薪をかまどに「井の字型」に組み、その真ん中に新聞紙をまるめて、それから火を付けます。火の上に飯盒をのせたり鍋をのせたりするのですが、その場所も教えていただきました。この日のメニューはカレーライス。まずはご飯がきちんと炊けるかどうかでした。飯盒からぶつぶつと白い泡が出て、それが固まったら、ふたをとって中を確認してください、と教えてもらい、その通りにやったのですが、火の加減が難しく、なかなかご飯が炊けない班もありました。カレー鍋の方は、ジャガイモと人参が食べられる柔らかさになったら、カレーのルーを入れる、という約束でしたが、最後まで、ジャガイモが堅くて、なかなかルーを入れられない班もありました。でも、6時過ぎにはほとんどの班の調理が完成し、持ってきたシートを班で敷き、それに座って、ごちそうのカレーライスを食べました。ご飯もカレーライスも余すことなく、完食状態でした。

最後は食器を洗います。鍋についたすすを金たわしでごしごし落とします。瞬時に落とす器用な女子生徒がたくさんいました。飯盒は、中にこびつたご飯を取り除くのが一苦労でした。これも男子の力を借りて、米粒一つ残らぬようにきれいに仕上がりました。

7時半過ぎに、真っ暗な山道を通ってスポーツセンターに着き、玄関前で入所式を行いました。センターの方から歓迎の言葉をいただき、所員の方からセンター利用上の諸注意をいただきました。

入所式が終わってからすぐ下のキャンプ場に向かいました。キャンプファイヤーの準備をし、火の神を私が務め、学年委員のアナウンスによって



セレモニーを行い、火の子どもたちに分火し、キャンプファイヤーとなりました。火の回りを「マイムマイム」で何分間も踊り、9時頃に終わりました。その後、班長会議、入浴、消灯となり、修学旅行を終えている学年なので、消灯後は一つも音がなく、それぞれの部屋が静まり返っていました。



翌日、6時半過ぎに部屋の片付け、朝のお仕事をし、7時半からの朝食に向かいました。朝食は、バイキング形式で、朝からたらふく食べた生徒もいれば、さらっと食べた生徒もありました。

朝食後に、退所式を行い、バスで小岩井農場に向かい、ゆったりとした一日を過ごし、これからの生活の英気を養いました。

この2日間の宿泊体験は、3年生になって組替えから初めての宿泊となり、思い出に残る行事となりました。この団結力が立志祭、合唱コンクールへと続いてくれれば嬉しいです。

続 沖縄修学旅行感想作文

8月中旬に秋田さきがけ新聞に掲載された前々号の続きの3年生修学旅行記事を転載します。

国同士の交流 重要性を実感 佐々木萌さん

沖縄の修学旅行2日目、雨がやんで曇り空だった。バスに乗り、ホテルから1時間ほどで「轟の壕（とどろきのごう）」へ到着した。中は足場がごつごつし、懐中電灯の明かりを消すと何も見えなくなった。

この中で戦争の話聞いた。当時食べ物がなくなって餓死する人が多く、出て行こうとすると、殺されてしまうような状況だったそうだ。

同じ悲劇を繰り返さないためにも、国と国が仲良くすることは大事なことであった。

悲しい史実に 涙が止まらず 池田百花さん

沖縄の修学旅行で私が一番印象深かったのが糸満市にある「轟の壕（とどろきのごう）」だ。最初はとても怖くて、入る前から手が震え、涙目だった。それでも頑張って入った。

中はとても広かった。この前の日に糸満市の中学生が教えてくれた戦争の話が思い出され、ガイドさんの話が始めるとリアルに想像してしまい、涙が止まらなかった。

戦争があった時代は、平和に過ごす私たちには分からない、とても言葉に言い表せないほどのつらさがあったのだと思う。

皆さんも一度は壕を訪れてみてください。平和のありがたさ、戦争の残酷さがよく分か

ります。

心臓に響いたエイサー演奏 本間蒼さん

修学旅行では、沖縄の島唄と伝統芸能のエイサーを楽しんだ。どちらもとても盛り上がった。

島唄はすごくいい唄で感動したし、エイサーは迫力があって、太鼓の音が心臓まで響いてきた。エイサーは地域によって違うということなので、また沖縄に行ったら、他の地域のエイサーも見てみたいと思った。

悲しい別れを笑顔に変える 阿部嵩史さん

修学旅行1日目、昨年10月に本校を訪問してくれた糸満市の中学生たちと再会した。

たくさん話をしたり、写真を撮ったりしてとても楽しかった。でも別れが近づくにつれ、みんな涙を流した。その涙を笑いに変えたのが、僕たち野球部のダンスだ。糸満の仲間と一緒に踊って、笑顔で終わることができた。またいつか、みんなに会いたい。

多様な命を守っていこう 佐々木寿美怜さん

修学旅行で訪れた美ら海水族館には、少し前に話題を呼んだダイオウイカのほか、沖縄だけに生息している魚など興味が湧くものがたくさんあった。

中でも興味をそそられたのは体調15メートルもあるジンベエザメだ。ものすごい迫力と優雅な泳ぎに癒やされた。

自然の命の大きさと多様さを知り、これを守るためには、私たちの生活や行動が重要な鍵を握っているのだとあらためて思った。

1年生 職場体験

9月2日(火)に1年生の一日職場体験が実施されました。体験後の作文を紹介します。

「みつば保育園」を体験した田口咲葵さん

子どもたちの安全のために、たくさんのお話を聞いて、すごいと思いました。「自分のやりたい仕事を一つにしぼらず、いろいろなことを経験してから、自分に合った仕事を選ぶ」ということが大切だと知りました。

「幸寿園」を体験した若松広也さん

今回の職場体験では、福祉の仕事が、とても難しいけれど、とてもやりがいのある仕事だと思いました。本の読み聞かせが終わったときに入所者の人に「ありがとう」と言ってもらって、仕事のやりがいを感じました。

「ありすの街」を体験した佐藤瀬奈さん

福祉の仕事はとても大変な仕事だと思いましたが、とても楽しそうに入所者の方々と接しているのが、印象に残りました。それから、人とのコミュニケーションの取り方など、勉強になりました。